

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。 <指導上の課題> 習得した知識・技能を活用する学習を、全体指導で設定しづらく、また個別指導が十分に確保できない。	⇒ 習熟度に応じたプリントを準備する等、個別最適な学びの実現に努める。【毎日】 ⇒ スクールアシスタントが授業に入り、個別指導等のサポートをする。【毎日】 ⇒ テスト前に学習会や質問会を実施する【定期テストごとに実施】 ⇒ ドリルパークやスタディサプリなどを活用する機会を増やしていく。【長期休業期間中】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 「思考・判断・表現」の記述式問題の正答率が二極化している。 <指導上の課題> 知識・技能に二極化がみられるため、授業時間内での個別指導が十分に確保できない。	⇒ 生徒自身の振り返りの時間を行い、前時の授業との連続性を持たせていく。【毎日】 ⇒ スクールアシスタントが授業に入り、個別指導等のサポートをする。【毎日】 ⇒ オクリンク等を活用した「学び合い」を継続して行っていく。【毎日】 ⇒ 学級活動における話し合い活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を向上させる手立てとする。【年間】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国平均と同様の結果であった。ただし、「事象や行為を表す語彙」の問題に課題がみられた。数学では、「数と式」の問題において課題がみられた。素数やグラフの読み取りの問題において、全国平均と同様の結果であったが、数学的な表現を用いて解答する問題に課題がみられた。
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」における選択式問題において、全国平均を上回っていた。しかし、同じ領域の記述式の問題において課題がみられた。数学では、「倍数」の問題において全国平均と同様の結果がみられた。一方で、「図形」の問題において課題がみられた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	スクールアシスタントが授業に入り、各教科担当と連携を取りながら支援を行った。 長期休業中にスタディサプリで課題を設定した。習熟度に応じたプリントも準備して、生徒が自身で選択して取り組みを行っている。	変更なし
思考・判断・表現	B	学級開きや行事等に関連させて、学級活動における話し合い活動を実施した。 スクールアシスタントが授業に入り、個別支援を行った。	9月にさいたま市教育委員会の指導主事を招聘して、学級活動における話し合い活動の授業研究と教員研修を行い、生徒への支援につなげていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)